

(別紙4)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290200017
法人名	社会福祉法人太陽とみどりの里
事業所名	グループホームなごみ(1丁目)
所在地	安来市広瀬町広瀬1911-1
自己評価作成日	平成22年2月12日
評価結果市町村受理日	平成22年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.fukushi-shimane.or.jp/html/kaigojyohou/index.html">http://www.fukushi-shimane.or.jp/html/kaigojyohou/index.html</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	平成22年3月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔のあるグループホームを目指し、職員一人ひとりが明るく元気が出るよう意欲をもち、その気持ちが利用者に伝わるように支援をしています。  
生活の場であり、その人の家という認識はありますが、今までの在宅のサービスや施設でのレク活動や趣味活動が継続できるように、役割や仕事だけではなく、歌を歌ったり、レク活動をしたりしながら、役割と、楽しみを考えて生活の中の一部として考えられるように支援しています。  
家族・家への思いを大切に、グループホーム入所後も良い家族関係が続くように家族とのコミュニケーションも大切にしながら、支援しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者、管理者、職員は、評価を実施する意義を理解しており、自己評価の際には全員での話し合いも行われるなど、事業所をより良くしていこうとする積極的な姿勢が見られ、改善に向けての取り組みもなされている。評価の目的を共有化し、内容を理解し、評価を通して、より良いケア提供ができるよう、今後も継続的、積極的な取り組みを期待したい。  
自治会に加入し、回覧配布や地域の行事、自治会活動への参加に加え、地元保育所との交流会など、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。  
加えて、事業所自体が地域で必要とされる役割りを積極的に担っていこうとする活動展開など、地域密着への取り組みは評価できる。  
認知症高齢者に対し、より良いケア環境を提供したいという開設に至った経緯とも併せ、管理者、職員からは認知症のケアに対する熱意と情熱が感じられ、職員の声掛けや対応は、あくまで利用者のペースに合わせたさりげなく穏やかなものであり、利用者主体で尊厳と自己決定に配慮がなされ、自立生活に向けたケアが提供されており、利用者や職員の笑顔や会話からは、共に過ごし支え合う関係の上に成り立つ良好な関係を窺い知ることができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をスタッフ間で共有しながら、理念に基づいた介護が行われているか常に確認し、実践につなげている。	法人の基本理念を基に、「家庭的な環境の下で…」と事業所独自の理念を職員全体で協議しつづられており、これを基に、地域との交流を積極的に行うなど、具現化に向けての積極的な取り組みがなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物に出掛けたり、日々の外出時や散歩時など気軽に挨拶などしている。 自治会の行事に参加したり交流は増えている。	自治会に加入しており、地域で開催されるお祭りや運動会といったイベントには、利用者とともに積極的に参加しており、地域交流会の開催や、回覧配布、近隣の保育園や小学校との交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の来所に伴い、認知症の理解を啓発するとともに、認知症サポーターの養成講習に参加している。 今後地域への貢献を増やしたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所からの報告等を行い、参加メンバーからも建設的な意見を頂いている。 出された意見はスタッフ間で共有を図り、より良いサービスを目指している。	会議を次の行動目標を設定する場として、加えてより地域との連携を図るものとして活用しており、会議の内容は会議メンバー以外の家族等にも周知されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは連絡を取り合いいつでも相談ができる体制が取れている。	市の担当部署には事業所から運営などについての情報を提供し、意見や理解を求めてケアの向上に役立てるなど連携に取り組んでいる。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関を施錠することはなく、自由に出入りできるようにしている。 また身体拘束の研修を行い、拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修を行い、職員全員が身体拘束によって利用者に与える身体的精神的苦痛を理解しており、拘束のないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修・内部研修で虐待について考えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、復命研修を行うことで理解を深めようとしているが、すべての職員には理解ができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・入居時には時間をかけて説明している。 できることできないことを初めに説明し理解を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気軽に話ができるように日ごろのコミュニケーションを大切にしている。 出された意見要望については、その都度相談に応じるとともに、運営に反映させるいる。 意見箱設置を予定している。	家族の面会時には無理なく意見や要望を言える声掛けがなされ、また毎月、利用者の状況などを記した便りが送付されるなどの工夫も見られ、家族からの、意見や要望があればケアに生かす体制も作られている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のスタッフ会議等で意見を聞くようにし、日ごろからコミュニケーションを図り、意見を出しやすい雰囲気を作っている。	当日の管理者や一般職員のヒアリングからも意見を表出する機会が多く、意見に関しては協議・検討がなされ、運営に反映されていることが窺えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所長との職員会でやりがい、労働時間などについての要望を提出している。 資格取得について支援をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が実情に応じた研修計画を立て、職員の資質向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	主に管理者が市内の同事業所とのコンタクトをとり、職員について、地域ケア会議等で情報交換を行うようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の見学を行っていただくなどし、本人や家族の思いを理解している。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には家族に面会をし、アセスメントを行い、状況を把握し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャー・相談員などと面会を行い、今必要なサービスはグループホームなのか等、話し合いを重ねた上で入居をいただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する上で、教えて頂くことが多い。 できるだけ利用者さんを巻き込んだ生活をするようにしている。 感謝されることも多い。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には情報を伝え、可能な限り面会をお願いし、関係が途切れないようお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ出掛けたり、家に近くにドライブに出掛けるなどし、知人との関わりを持つようにしている	入居前に詳細なアセスメントが行われており、馴染みの人や場の情報は把握されている。その情報を基に利用者の意向を捉えながら関係継続の支援が細かく行われている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性についてスタッフが把握し、生活の場面で配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了となっても、今の状況を把握し、他事業所への橋渡しができるようにしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	表情や思いなどを把握し、直接本人と話をしたり、家族を含め話し合いをしたりしている。	本人の思いや意向に添うように努めており、意向把握が困難な場合は、利用者主体とし、家族から意見を聞いたり、日々の生活から意向を把握するよう努め、職員の一方的判断とならないよう注意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント行うことで、本人像を深めている。 信頼関係を作るための時間を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活習慣を大事にしながら、職員の気づきをもとに、その人らしい生活が送れるように考えている。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で本人の意向を把握するように心掛け、家族さんには面会時に相談をしカンファレンスを行いながら、介護計画に反映するよう努めている	本人や必要に応じて家族や関係者とも意見交換・検討を行い、“望む生活” “あるべき人生”を実現するための課題を全職員で抽出し、協議・検討がなされ介護計画が策定されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフが理解しやすく、見やすく、振り返りができる記録用紙を作成し、勤務開始時前に確認している。 必要時にはカンファレンス等を行い、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限りグループホームでの生活が継続できるように、受診介助や往診介助を行うなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員のボランティアや畑ボランティアの協力を得たり、市の行事・自治会の行事にできる限り参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の継続を促し、日々の状況については情報提供を行っている。 必要時には、管理者が直接主治医に相談している。	利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、家族等共に協力し通院介助を行ったり、訪問診療対応の医療機関を紹介したりしながら、本人や家族が納得できる受診支援を行っている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置なしの状況で、できることをしている状況。 法人の他事業所の看護師に相談するようとのことであるが、日常の変化が分からない状況では難しいと思われる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には管理者が付き添い、情報提供を行っている。 退院時には早期退院に向けて病院との連携を取っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護をする方針が進んでいたが、看護師不在ではどうにもならない状況。 今年度は重度化中止の方針を行い、法人内の他施設への移行を行っている。	昨年度から、重度化対応や終末期ケアをする方針で取り組んでいる。重度化対応の利用者があったが、家族と協議した結果、法人内の老人福祉施設へ入所となった。	多様化する介護ニーズを勘案したとき、重度化や終末期に向けた対応は不可避であると考えられる。事業所としての基本方針を定め、地域ニーズに対し、適切に対応できるような体制が取られることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、緊急時の研修等を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	内部研修とともに、自治会に消防訓練に参加していただき、地域ぐるみでの防災訓練を行っている。	消防署の協力を得、隣接の老人保健施設等と共同で年に2回の防災訓練を行っており、地域の方にも参加依頼し、協力も得られている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で、何気ない言葉がその人を傷つけていないか、自分で気づくように研修を行っている	衣服の乱れや汚れがあればそっとカバーするような対応がなされ、排泄介助の際もプライバシーが守られ、本人の「現実」を否定しないよう、全職員が意識統一を図って適切な声掛けがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの力に合わせて声掛けを行い、意思表示をして頂けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの都合によるサービス提供でなく、本人の気持ちを理解した上でのサービス提供ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や更衣時に好きな服を選んでもらったり、化粧をしたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物に出かけたり、毎日の料理作りに参加してもらっている。 毎食職員も一緒に食事をし楽しい時間を過ごしている	食材の買い物に出かけたり、毎日の料理作りに参加してもらっており、食事も、職員と利用者が同じテーブルを囲んでの食事であり、食事を楽しい時間とする支援がなされている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握を行っている。 糖尿病・刻み食など一人一人にあった食事を提供してる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりのケアの方法を確認し、毎食後口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンのアセスメントを行い、状況に応じた排せつ介助を行っている。 失敗があっても、他の人にわからないように配慮している。	排泄チェック表などから利用者一人ひとりの排泄のパターンを職員が把握、適時に誘導することによりトイレで排泄できるように支援している。また利用者の身体機能等に応じてのケア提供がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動・水分などを把握し、排便パターンを理解しながら介助をしている。 毎晩バナナヨーグルトでの排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴・夜間入浴など、個人の希望に応じ対応している。 入浴を好まない方に関しては、声掛けの工夫や、清拭等をしている。	入浴に関してはあくまでも本人等の希望に合わせた入浴ケアが提供されている。 入浴を拒む利用者に対しては、言葉掛けや対応の工夫等によって一人ひとりに合わせた入浴支援がなされている。	

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室以外にも様々な休憩場所を設けている。 日中の活動により、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が配置されていない分、薬の危険性や重要性に関して理解を深め、対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作りや炊事、買い物など張り合いのある日々を過ごしていただけのようにしている。 役割だけでなく、ドライブやレク活動も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を聞きながら買い物やドライブに出掛けたり、喫茶店や遠足、花見に出掛け喜ばれている。	利用者の意向を踏まえたドライブ外出や、近所への散歩等をはじめ、季節に応じた外出支援も実施されており、外出の機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さんによっては、自分の財布からほしいものを買物しているが、殆どの利用者は事務所で管理している。		

【セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月1回の情報提供で手紙を出したり、利用者によっては電話やハガキを出される支援をしている。電話がかかけたい時には、いつでも自由に事務所からしていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生け花や鉢植えなど季節感を感じていただいたり、写真を置くことで、安心感のある、空間づくりを行っている。	共用スペースには、ソファや畳敷きのコーナーもあり、藤製の衝立を配置するなどし、出来る限りセミファブリックな空間を取るような配慮がなされており、気の合った利用者同士が談笑する光景も見受けられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやいす、こたつなどを配置し、一人ひとりが好きなところで、過ごすことができるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や写真により、自分の居室という気持ちを持っているようにしている。	ホーム設置のクローゼットが設置されており、利用者の家から使い慣れたテーブルや椅子、こたつやテレビといった物の持ち込みもあるが、利用者によっては殺風景な居室もある。	家族等の協力が得られない場合も、あくまでも「本人主体」ということを念頭におき、その人らしい居心地のよい居室、ここが自分の住まいと感じられる居室作りに向けての取り組みと支援に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全の確保と自立への配慮に努め、包丁などは保管をし自由に生活できるようにしている。		